

○議長（小林哲雄）

日程第3 一般質問を行います。

質問の順序は通告順に行いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という者多数）

○議長（小林哲雄）

ご異議なしと認めます。よって、一般質問は通告順に行うことに決まりました。

それでは、一般質問を行います。質問・答弁は簡潔にお願いいたします。

9番、佐々木昇議員、どうぞ。

○9番（佐々木昇）

皆様、おはようございます。9番議員、佐々木昇でございます。

本日は、通告に従い一つの項目について質問させていただきます。「開成水辺スポーツ公園における今後の展開について」。

年間8万9,000人の方が利用される水辺スポーツ公園、とりわけ関東地方で最初のコースが設けられたパークゴルフ場は、平成6年の開園以来20年を迎えた現在においても、その利用者数は伸び続けております。いまや町のシンボルとなった開成水辺スポーツ公園を今後さらに活用し、地域住民同士の交流や連携の促進、教育、健康増進に役立てるとともに、広域連携拠点としての経済活性化に寄与する等、新たな川沿いのにぎわい実現に向けた取り組みを要望いたします。

1、さらなる利用者人口の拡大を目指しイベントや普及啓発が必要では。2、パークゴルフ場の近隣市町村との連携を。3、パークゴルフのブランド確立を。4、全国大会開催のための新コースの増設と、あらゆる世代が親しむことのできる施設とするため子ども用の遊具増設等、公園設備の整備を進めるべきでは。5、開園20周年を迎え、あらゆる世代に来園してもらえる拠点づくりとして「川の駅」の誘致を進めては。6、県外や他市町村からの集客に対する整備として、足柄大橋や足柄紫水大橋からの連絡道路を水辺スポーツ公園まで延伸し大規模な駐車場の整備を行うべきでは、について、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、佐々木議員のご質問にお答えしたいと思います。質問項目が多いので少し答弁が長くなると思いますが、ご了承願いたいと思います。

一つ目の利用者人口の拡大、増ということで、イベント普及をもっとやったらどうかということでもありますけれども、今、現状、開成町の水辺スポーツ公園がどうなっているかを先にお話をさせていただきます。

過去5年間、毎年、利用者が実は増えております。平成21年度は10万4,455人、平成22年、8万5,497人、ここは水辺スポーツ公園が集中豪雨の関係で流されてしまったという年であります。平成23年度、10万7,559人、平成24年度、11万2,500人、平成25年度、11万2,672人と、毎年、水辺スポーツ公園を利

用される方が増えております。

その理由の一つとしては、平成22年度から指定管理者制度を導入しました。現在、今、指定管理者は湘南ベルマーレの関係のスポーツパートナーというところでありまして、その関係のネットワークがいろいろありまして、つい先日、12月、1月、自転車の大会、シクロクロスという競技大会も水辺スポーツ公園で開催されたり、いろいろな競技が管理者のネットワークの中で誘致がされているというの也有ります。

さらに開成町の地元の体育協会、またパークゴルフ協会の皆さんが、これは地道にきちんと、いろいろな誘致をはじめ競技大会をやっている関係も増えております。

それから、さらに総合型スポーツクラブを設立いたしまして、水辺スポーツ公園に事務局を置き、ここで親子のサッカー教室大会、ジョギング大会、また先日はパークゴルフもペアの大会を開催したりと、いろいろな人たちが水辺スポーツ公園にかかわって、総合的に毎年、利用者が増えているのではないかと考えております。

そういった中で、さらに27年度から、これに加えていきたいと思っておりますものがあります。今年、町制施行60年ということもありまして、町民体育大会を1年間に1回開催をさせていただくことで、そういった中で水辺スポーツ公園が利用できるかどうか。場所の決定はまだしておりませんが、そういう可能性もあります。

また、さらに、スポーツだけではなくて、夏の花火大会、松田と共同でやっておりますけれども、納涼祭りにおいて、ここでコンサートをやったりバーベキュー大会というのも、この2年ほど開催をさせていただいて利用者の増を図っております。これは夏のイベントですけれども、今、冬になれば、松田でもイルミネーションを飾ったり、宮ヶ瀬ダムでもそのような冬の風物詩というものもあります。この水辺スポーツ公園を使って冬のイルミネーション、考えられることではないかと思っております。さまざまな水辺スポーツ公園を利用したイベントをこれからも考えながら、この利用者を増やしていきたいと思っております。

また、新たに湘南ベルマーレの関係でラグビー大会というのも、来年度、誘致が決まっております。ここのサッカー場、天然芝、なかなかこういう天然芝で試合、大会が行われるところがないと。開成水辺公園の一つの大きな売りでもありますので、いろいろな大会を今後も開成町に誘致をしていきたいと思っております。

それでは、二つ目のパークゴルフ場、近隣の町との連携。今、この足柄上地区には、パークゴルフ場が6カ所あります。それで、大井町においてもパークゴルフ場をつくるというふうな方向性が今、示されておりますので、これができれば1市5町、全てパークゴルフ場がある地域ということになります。このスタートは、やはり開成町からパークゴルフが上地区だけではなくて関東に広がったということがありますので、開成町が中心となって、この連携は強化をしていく必要があると。

幸いに今、神奈川県が県西地域活性化の中で、つい3月1日からですけれども、上地区のパークゴルフ場を使って県のイベントとして初心者講習会をスタートさせました。残念なことに、3月1日、雨のために開成町における第1回目は中止になってしまいましたけれども、県も足柄上地区のパークゴルフに対して力を入れていると。

それぞれ各町においても指定管理を導入しておりますので、開成町も指定管理者が中心となって、それぞれの町の指定管理者と連携強化を開成町が主導で進めていきたい。それによって、もっと多くのお客さんを呼ぶことができるのかなと。この近隣の開成町や町民の皆さんには、例えば、どこの町でも使えるフリーパスという導入も考えられるのかなと。全国的に考えれば、開成町だけではなくて、足柄地域のパークゴルフをつなげることによって、パークゴルフのネットワークによって新たなツアー大会というものも考えられると思います。これは、連携を強化することによって、そのようなパークゴルフの全国からのお客さんの誘致というものも考えられると。そのようなことを、やはり開成町から連携強化を発信していきたいと考えております。

三つ目のパークゴルフのブランド化。もう開成町というより、パークゴルフというのは、もうブランド化されているのではないかと私は認識をしております。国内に今、1,283のパークゴルフ場のコースがあります。海外にも10カ国、64コース。パークゴルフの愛好者は124万人。パークゴルフは今、これだけのものを持っていると。これは、もう既にブランド化されているのかなと私は考えております。

そういった中で、開成町は北海道幕別町、パークゴルフの発祥の地である幕別町と災害時の応援協定を結んで、友好都市という関係を今つくり上げております。2月、北海道幕別でそり大会がありまして、職員4人がそり大会に出て開成町をPRしてきました。北海道のNHKや地元新聞にも開成町のことが取り上げられ、パークゴルフを通して開成町を北海道にPRをしてきている。

パークゴルフの関係でいけば、今、北海道幕別町は四国の中郷町とパークゴルフを通じて交流があります。開成町も、全国にあるパークゴルフ関係の団体とこれから連携を結ぶことによって、開成町をパークゴルフを通してPR、発信をしていくことができるのではないかと。そのような形で、今後、進めていきたいと思っております。

これは町外に対してですけれども、神奈川県内においても、県が活性化プロジェクトの一環として開成町を「運動の駅」、水辺スポーツ公園を「運動の駅」と今、位置付けをしていただいておりますので、開成町の町民の皆さんをはじめ上郡の地域の皆さんには、水辺スポーツ公園を「運動の駅」として、健康の場所として、これからもっともっと活用していただけるように拡大をしていきたいと考えております。

四つ目の全国大会開催のために新しいコースを、さらに子どもたちのために遊具等をもっと充実したらどうかという提案でありますけれども、現在、あじさいカップやしいがしカップなど全国大会を開成町、開催をしておりますが、軟式野球場を特別コースとして、仮の穴をあけることによって36ホールということにすることによって公式大会を今、開催をしております。正式には36ホールがきちんとあるところで全国大会というのは開催をされますので、やはり今後、常設の9ホールがもう一つできれば、正式に、もっと新規の大規模な大会の誘致が可能になる。また、この近隣には36ホールあるパークゴルフ場はありませんので、開成町の売りということにもなりますので、もう9ホール、これはつくっていききたいと考えております。

ただし、なかなか簡単なことではなくて、この場所が河川敷ということもありまして、

認可、許可を取るのが大変なところが実はあります。しかし、神奈川県がサイクリングコースの移管に関して今、準備を進めておりますので、また、さらに県も、県西地域活性化のために水辺スポーツ公園は「運動の駅」と認定をしていただきましたので、それに絡めながら県土木の許可を得られるよう、これは鋭意努力し、新しい9ホールを完成させていきたいと考えております。

あと、子ども用の遊具。今、管理棟の横に子ども広場ということで、いろいろな遊具をいろいろ要望を聞きながら、今年度は新しく砂場も設置をさせていただいておりますけれども、やはりスペースの関係で新たにいろいろな遊具を常設的につくっていくには難しい部分がありますので、この部分においては遊具の貸し出し、常設ではなくても、その遊具を持って、ここのあいているスペースで遊べるような遊具、例えばそりとか、そういうものを用意して貸し出す方向で準備を進めていきたいと。そういう中で、子どもたちや親子の皆さんの憩いの広場となれるような場所の提供も、あわせて考えていきたいと思っております。

五つ目の「川の駅」の誘致ということで提案をいただきましたけれども、なかなか「川の駅」という、余り皆さん方になじみがないのですけれども、調べましたところ、「川の駅」というのは川の近くにあるか川の活動に関係した施設で、地域住民や水辺の訪問者等にトイレや休憩場所等を提供し、地域に係る情報を提供する場所であり、人と人の出会いや交流をサポートし、人がいて簡単な受け答えができるような場所と定義付けられているようであります。

一般的に観光拠点として「道の駅」というのが有名であります。国土交通省が認定する施設であります。しかし、「川の駅」というのは認定施設ではなく、一般に川沿いにある「道の駅」と同じような形で利用をされているようでありますけれども、現在、水辺スポーツ公園において、川沿い流域の交流拠点としてではなく、やはり今までどおりスポーツ施設として整備を進め、また、ここは運動の拠点、健康の拠点という形の位置付けで進めていきたいと考えております。

グラウンドのところでもお話ししましたがけれども、水辺スポーツ公園は神奈川県が推薦する県西地域活性化プロジェクトに基づく県西地域一帯の活性化のため、開成癒しの里プロジェクトの展開ということで「運動の駅」に認定されておりますので、民間との連携を重視しながら水辺スポーツ公園をさらなる活性化に向けて進めていきたいと思っております。

最後の6番目、足柄紫水大橋、足柄大橋からの連絡道路を水辺スポーツ公園まで延伸をして大規模な駐車場の整備をしたらどうかという提案ではありますが、平成26年3月に足柄紫水大橋の開通と同時に開成駅東側に連絡する町道304号の3号線、通称「連絡道路」の供用が開始されました。この道路を開成水辺スポーツ公園方面へ延伸をする場合、開成駅周辺地区土地区画整理事業区域内の未整備区間で、祖師堂堤防沿いに道路計画を入れるなどの構想が考えられることはあります。しかしながら、第五次開成町総合計画において、この地区に新設道路計画はなく、今後の町内道路整備網を考えますと、その必要性は薄いのではないかと考えております。

また、足柄大橋からの連絡道路の新設につきまして、現在の橋りょう構造上、実現は、なかなか足柄大橋から連絡道路を広げるというのは困難な状況でもあります。それよりも、今あるルート足柄大橋、足柄紫水大橋から開成中央通りを経由して開成水辺公園へ誘導するほうが、将来に向けてわかりやすく安全で合理的なルートではないかと考えております。

なお、大規模な駐車場の整備につきましては、現段階において駐車場が不足しているというふうには考えておりません。また将来的に慢性的な不足が生じた場合には、これは検討していきたいと考えております。

以上であります。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○９番（佐々木昇）

ただいま町長から、かなり細かいところまでの答弁をいただきましてありがとうございます。そんな中、順次、再質問をさせていただきたいと思います。

開成水辺スポーツ公園におきまして、第五次総合計画では年間利用者数の目標値といたしまして１１万３，０００人とされておりますが、平成２５年度の利用者数は１１万２，６７２人と、関係者の方たちの努力、ご尽力により、利用者数が順調過ぎるぐらいに伸びている状況です。町としては、まだまだ新たに今後も水辺スポーツ公園でのイベント開催やさまざまな活用について考えていくということですが、現在、どのような動きがあるのか、具体的に動き出している取り組みは何かあるのか、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

それでは、ご質問にお答えをしたいと思います。

イベント的な今後の流れというようなことでございますけれども、町長答弁にもございましたとおり、開成水辺公園には、町の広告塔の一つというようなことの中で、きれいな水辺の雰囲気を利用してさまざまなイベントを考えていきたいと考えてございます。イルミネーションのお話、コンサートのお話などございましたけれども、今後も幅広い活用を考えながら、多くの方に来園をしていただくような活用、ＰＲを図ってまいりたいと考えてございます。

なお、平成２７年におきましては、町制施行６０周年記念事業というようなことで町民体育祭、平成１２年の第４４回大会以来、１４年ぶりの開催ということを考えてございますので、まずは、ここを盛り上げていって、水辺スポーツ公園のよさを町民の皆様へアピールをしてまいりたいというふうに考えてございます。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○９番（佐々木昇）

ぜひ、町民の方に水辺スポーツ公園のよさをアピールでき、また魅力ある取り組みを

していただきたいというふうに思います。

続きまして、近隣市町との連携ですけれども、足柄上地域では全国でもまれなパークゴルフ場が集まっている地域だと私は思っているのですけれども、私も、そういったものを武器に広域的に何かできないかと。例えば、先ほど答弁にもありましたツアー大会、そんなものを考えておりました。1年間通して各コースで大会を開き年間のチャンピオンを決める、そんな取り組み等を考えていたのですけれども、連絡会議を計画しているということですから、非常にこれは期待したいのですけれども、連絡会議、これについてお聞きいたしたいと思います。

3月1日から始まるパークゴルフ初心者講習会、これを契機に開催を計画されているということでしたが、まだ3月に入ったばかりで、3月1日は雨で講習会が中止になったということですから、現況はどうなっているのか、今、何か、またそれ以外に動きがあるのか、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

お答えをさせていただきます。

現在、足柄上地域におきましては、南足柄市に2コース、中井町、山北町、開成町、それと松田町にコースがございますが、そのうち松田町を除く5コースにつきましては指定管理者によりまして維持管理がなされております。先ほど町長のほうからも申し上げましたが、ぜひ開成町が中心となって、こちらのほうの指定管理者同士の連携会議を開催するというようなことを進めてございます。既に入り口といたしまして、指定管理者同士の連携会議を3月中には開催をするというように話が整っているというようことは聞き及んでございます。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

開成町が中心となってやっていきたいということですから、内容に関してですけれども、開成町として、ちょっと内容のことで何か具体的な考え、現在、何かあるようでしたら、お聞かせください。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

お答えをさせていただきます。

指定管理者同士の連携につきましては、今後、広域的にパークゴルフを通じて多くの方に足柄上地域にお越しをいただきたいというようにことの上で大変有意義なものだと考えておりますので、私どもも、その開催については支援を差し上げていきたいというふうに考えておりますが。

まず、3月の開催を決めているというようにお話を先ほどさせていただきましたが、

平成２７年度に各コースで行われるイベントなどが、集客の効果を上げるためというようにイベントの重複等がしないようにスケジュール管理等の調整から入らせていただいて、今後、コース同士の連携を図っていくことで、先ほどツアー大会等のお話もございましたけれども、利用者の方が、より楽しんでいただけるような利用の幅を拡大していきながら、それぞれのコース、難しい、易しいというようなこともございますけれども、それぞれのコースの特性を生かしながら、さまざまなお客様、利用者の方の要望にこたえられるような広域的な利用環境の拡大を図るというようなことで、相乗効果というような面で、そのような連携会議を開催いたしまして、連携会議を重ねていく中でさまざまな先ほど申し上げたような拡大、ＰＲ等の周知を図っていきたいと考えてございます。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○９番（佐々木昇）

ぜひ、開成スポーツパートナーさんには中心になっていただきまして、パークゴルフのＰＲ、競技人口の拡大、利便性の向上をしていただくことを期待したいと思います。

続きまして、パークゴルフのブランドの確立、ＰＲですけれども、ねんりんピックというのがあるのはご存じかと思えますけれども、全国健康福祉祭の愛称としてねんりんピックと呼ばれておりますが、スポーツや文化種目の交流大会をはじめ、さまざまなイベントも開催されているようです。一大会の参加人員を見ますと、４０万から５０万人というような大会になっております。この大会が平成３３年に神奈川県で開催されるということになっておりますけれども、ぜひパークゴルフを開成町で開催していただきたいというふうに思いますが、町の考えをお聞かせください。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

お答えをさせていただきます。

私も、ねんりんピックに関しましては、幕別町のパークゴルフ発祥３０周年の記念のところで、高知県大会が開催された際に高知県の中土佐町というところの担当の職員の方と記念式典の中でお話をさせていただいて、初めて知ったというようなことでございますけれども。関東初のパークゴルフ場というようなことで開成町から関東にパークゴルフが拡大していったというような歴史もございますし、ねんりんピック等の誘致がこれから神奈川県の方でなされるというようなことがあれば、ぜひ開成町のほうにパークゴルフをお呼びして、多くの皆様が開成町のＰＲの一環として浸透していくように我々のほうも働きかけをしていきたいと思っております。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

今、すごく大事な提案をいただきましたので。これは、先ほどの上郡の広域の連携の

中と非常に絡んでくると思うのですけれども、開成町からパークゴルフが広がった以上は、開成町から上郡の連携の中心となっていきたい。それは、開成町に誘致するというより、この足柄上地区にパークゴルフの今、言われた大会を、神奈川県でねんりんピックがある以上は、それは誘致を積極的にしていきたいと思っています。

幸いに今、私、上郡の町村会の会長になりまして、上郡の5町の中では、特に観光について連携をきちんとして、27年度以降、やっていこうという合意がとれました。そういった中で、パークゴルフというのも一つの観光の位置付けにもなっていくと。この近隣においては、上郡が連携することによって、先ほどお話ししましたがフリーパスの券ができるかもしれませんし、それ以外の県外から、全国から、上地区にパークゴルフの大会を開催することによって観光としての誘致もできるのではないかと考えています。東京オリンピックもありますし、今のねんりんピックもあります。そういうものにあわせて、できるだけ、それまでにきちんと上地区が一体的に取り組めるような体制づくりをつくっていきたいと。そういった中で開成町は、その中心となって発信をしていきたいと考えております。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

ただいま町長からも前向きなご意見をいただきました。ぜひ、開催に向けて頑張っていきたいと思います。

続きまして、公園整備の関係ですけれども、先ほど、今、お聞きしたねんりんピック、これを開催するにはやはり36ホールが必要になってくると思うのですけれども、以前、私も9ホール増設についてちょっと質問させていただいたときは、ほぼ実現性がないようなお答えをいただいたのですけれども、その後、同僚議員が同じ質問をされたときに、9ホール増設を考えていくと。今日も町長から前向きな答弁のようなものをいただいたのですけれども、一つ確認させてください。この9ホール増設に関しての可能性というものは可能なかどうか、それだけちょっと確認させてください。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

不可能というものは、多分、私はないと思っています。ただし、先ほど言いましたように河川敷ですので、いろいろなうるさい規制があるというのはありますので、そこを何とかクリアするためには、ちょうどパークゴルフを県が「運動の駅」と位置付けもしていただいたし、県西地域活性化の中で、この県西地域に対していろいろな予算付けもしていただいておりますので、そういうものに絡めながら認可を取っていきたいと、これは実現をしていきたいと考えています。厳しいですけれども、それはやっていきたいという認識でおります。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○ 9 番（佐々木昇）

9 ホール増設について、先ほどの答弁にありましたサイクリングコースが移管されるタイミングに合わせて調整をしていくというふうなことでしたけれども、サイクリングコースの移管、以前、県に整備をしていただいてから移管していただくというような話で聞いておるのですけれども、その後、その辺の話はどうなっているのか、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（池谷勝則）

サイクリングコースのことにつきまして、私のほうから説明させていただきます。

前回、前々回ですかね、やはり同じような質問がありましたときにも説明したのですが、昨年の4月に県の担当から2市1町の担当のほうに移管についての打診がございました。そのときに、小田原市につきましては、まだ未整備の区間が途中から河口まであるのですが、こちらは小田原市自前で整備をするという計画が当時ございまして、その整備に合わせた後であれば移管について考えますという答えを当時、いただいております。南足柄につきましては、開成町と小田原市の動向を見て同時の移管を考えていきたいと。もちろん開成町につきましても、2市1町同時で同じ内容の移管をお願いしたいということで提案してございます。

その中で、その当時、ばらばらに県の方が各自治体に向かって説明をしておりましたので、一つの場の中で同じ提案で皆さんの意見を統一したほうがいいのではないかという提案をさせていただいたところ、その後、7月ぐらいまでに県のほうではある程度の方角性を出しますということをお願いしたのですが、実は、なかなかなくて、12月を過ぎまして、小田原市のほうで予定していた河口までの延伸が、当初、28年度ぐらいで終わるだろうということだったのですが、ちょっと遅れていると。やはり小田原市としては、遅れているものが完全に終わってからでないと全体の移管については考えられないという返事をいただきましたので、開成町も南も同じような方向で、今、県のほうには投げかけているところでございます。

今の状況としてはそういうことで、私たちのほうも、県のほうの裁きというのですか、それから小田原市の動向、この辺を注視して移管に向けて検討していきたいと思っております。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○ 9 番（佐々木昇）

県の関係とか近隣市町との関係もあると思いますけれども、9ホール増設とサイクリングコースの移管に関しましては、実現されるのはもちろんですけれども、時期も、できるだけ早く実現していただきたいというふうに思います。

続いて、子どもの遊具の関係ですけれども、以前質問したときに子どもたちへの遊び道具の貸し出し、先ほど町長の答弁でもございましたけれども、その後、どうなってい

るのか。今、町長の答弁で、何か、まだ取り組みはされていないようなお話でしたけれども、確認させてください。以前、お話のあった遊具の貸し出し、今現在、取り組みは始まっているのかどうなのか、確認いたします。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

それでは、私のほうからお答えをさせていただきます。

遊具の貸し出しにつきましてですけれども、現在、サッカーボールですとかゴムボール、それと先ほど砂場の話をさせていただきましたが、砂場で遊ぶ熊手などの簡単なおもちゃについての貸し出しを行わせていただいております。今後は、利用されるお子様のニーズというようなものを保護者の方からお聞きするなどした上で、そりというようなお話はございましたけれども、どうしても芝の上でそりの遊びをするというようなことについては、安全性の面からも十分に検討しなければいけないというようなこともございますので、そのあたりはニーズと安全性の確保、その両面を考慮しながら、今後の貸し出し等については具体的に進めてまいりたいと思います。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

最近、あそこの公園で遊んでいる子どもたちが気持ち増えたような気がするのですが、保護者の方たちの意見を聞くというのはとてもよいことだと思いますので、ぜひ利用者のニーズに合った取り組みをしていただきたいというふうに思います。

それと、利用者の方たちから軽食の販売があったらよいのというような声もありますけれども、軽食の販売について、町の考えをお伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

お答えをいたします。

現在、軽食の販売については、平日、休日ともに、特別なことがない限りは実施をさせていただいておりません。公園を普段利用される方におかれましては、お弁当をお持ちいただく方などが多いというような状況を伺っております。また、インスタントラーメンですとかインスタントコーヒーなどを持参されるというような方も多いということで、指定管理者のほうで、お湯ですかね、そういうインスタントラーメン等をつくる時に使われるお湯などの提供はさせていただいているというような状況でございます。

今後、利用者の皆様から軽飲食のご要望が多くいただければ、ある程度、試行的な部分も含めて移動販売車、湘南ベルマーレのほうでイベント等に出させていただいている移動販売車がございまして、そちらのほうの活用等も並行して検討しながら、その辺の対応を図っていきたいというふうに思います。こちらにつきましては、要望が幅広くあった場合というようなことで、今後考えていければと思います。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

これ、試行的にでも結構ですので、ぜひ一度、実行していただきたいと思います。

続きまして、「川の駅」についてですけれども、「川の駅」の考え方といたしましては、私、まず「まちの駅」の中の一つだと認識しているのですけれども、「まちの駅」設置要綱によりますと、「まちの駅」の機能といたしまして、先ほどの答弁でありましたけれども、休憩機能、案内機能、交流機能、連携機能、この四つがありますけれども、現在、神奈川県で進めている「未病いやしの里の駅」、この駅は「まちの駅」の考え方が含まれているということですのでよろしいのでしょうか。その辺、確認させてください。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

お答えをさせていただきます。

名称的な話になりますでしょうか。機能的なお話で言えば、今、議員のほうがおっしゃっていただいたとおり、休憩、交流、連携等のお話が備わっているというようなことから考えると、意味的には同様の施設かなと考えますけれども、県が進める県西地域活性化プロジェクト、これの「運動の駅」ということで登録をしていただいております。自然を楽しみながら楽しく運動をしていただくスポット、未病を治すスポットとしてPRをしてございますので、機能的な内容は一緒というようなことですけれども名称的には異なるというようなことで認識をしております。

○議長（小林哲雄）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

未病関係の話ですので、私のほうから補足させていただきます。

今、議員のおっしゃった「まちの駅」というのは、私、ちょっと不明で、多分、国土交通省のほうで定義を行っているものかと思えますけれども、県のほうで未病いやしの里の駅として、例えば、「湯の駅」でありますとか、あるいは水辺でつくられている「運動の駅」とか指定はしております。

ただ、県のそういう駅につきましては、いわゆる議員もおっしゃっている、恐らく国のほうの「まちの駅」とは別でございます。県のほうが独自に県西地域で未病を広めるために、「運動」ですとか「湯」とか、そのようなものを県民の皆さんに使っていただけるような、あるいは未病を知らしめるようなことができる施設を独自に指定しているというふうに私のほうは認識しているところでございます。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

この件は、私も、ちょっと様子を見させていただきたいというふうに思います。

続きまして、開成癒しの里プロジェクトですけれども、この取り組みが実行されるようになりますと、新たに施設を整備するのだと思いますけれども、現在、水辺公園の現状から見て、どのような施設の整備を予定されているのか、考え方を伺います。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

お答えをさせていただきます。

昨年、水辺スポーツ公園を核といたしまして、スポーツの普及促進というようなことで水辺スポーツ公園にコンディショニングセンター、こちらの開設によりまして、病気をしない、生活の質の向上、持続的な健康づくりの促進等を目的といたしまして、神奈川県との協議調整のほうを進めている状況でございます。

施設の整備に当たりましては、当然、財政面、それと先ほど申し上げた県等の調整を経て、さまざまな条件が整ってというようなことになるわけですが、今後、そのような過程の中で具体的に形になってくると考えてございますが、現在についてはプランの段階というような状況でございます。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

私、今回、開成水辺スポーツ公園における今後の展開についてということで、かなり幅の広い質問をさせていただきましたけれども、第一に開成癒しの里プロジェクト、また、ねんりんピックの開催、この二つは是が非でも実施していただきたいなというふうに思っております。

そのために施設の整備や9ホールの増設も必要になってくると思いますけれども、そういった関係でハード面、その辺の整備もしっかりと計画を立てることが必要かなと考えたのですが、これはまた質問する機会がありましたら、そのときに質問したいと思います。ぜひ、開成水辺スポーツ公園を「日本一元気、きれい、健康な町」の象徴となるような施設にさせていただくことをお願いいたしまして、私の質問を終わらせていただきます。